

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

1 実践テーマ	【 IV, V 】
2 実施対象者	福島市立吉井田小学校全児童
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（音楽科・家庭科・体育科・道徳・総合的な学習）</p> <p>② 行事名（運動会）</p> <p>③ その他（なし）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（なし）</p> <p>② その他（なし）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>「オリパラで 吉井田っ子が 輪になる心」</p> <p>○ 自らの目標をもち、自らのベストを目指す子ども</p> <p>○ スポーツに親しみ、徳・知・体の調和のとれた子ども</p> <p>○ 日本人としての自覚と誇りをもち、自ら学び行動できる子ども</p>
5 取組内容	<p>○ 運動会の工夫</p> <p>・ 従来の運動会を「2018 吉井田オリンピック」とし、入場の仕方を和やかなものにした（児童が作成した学年旗を先頭に笑顔で手を振りながら入場する）、オリンピック・パラリンピックちなんだ種目を工夫したりして取り組んだ。</p> <p>○ 持久走記録会のチャレンジカードの工夫</p> <p>・ 昨年度から継続実施。ホストタウンとなるスイス連邦の名所や食べ物などを記した練習記録カードを活用し、約 1 カ月間本番の持久走記録会に向け、持久走練習に取り組んだ。</p> <p>○ オリンピアンによる講演会の実施</p> <p>・ 福島市出身の山下航平氏（リオデジャネイロオリンピック三段跳び出場）を招聘し、講演会を行った。体験談に加え、実技披露や児童の体験も行った。</p> <p>○ ホストタウンとるスイス連邦に住む児童との交流（チューリッヒ日本人学校）</p> <p>・ 昨年度から継続実施。学習発表会のVTRの交換や手紙のやり取りを通して、スイスの風土や生活について知ったり、福島市や学校</p>

	<p>の紹介をしたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スイスのお菓子作り <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度に引き続き、本校栄養士の協力により、家庭科で「スイス風チョコレートプリン」の調理実習を行い、スイス連邦の食文化への関心を高めた。</li> </ul> </li> </ul>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの期待感や小学生としての参加意識を高めることができた。</li> <li>○ オリンピアンから直接話を聞いたり、間近でパフォーマンスを見たりすることにより、オリンピック・パラリンピックを身近なものに感じることができた。また、「未来の自分を想像し、目標をもつ」ことの大切さを学ぶことができた。</li> <li>○ ホストタウンであるスイス連邦への興味・関心が高まり、迎え入れる側の気持ちが高まった。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリパラ教育の全体計画を作成し、各学年の発達や教科等の指導内容に関連させた実践内容を設定したことにより、教育課程への無理のない位置付けができた。</li> <li>○ オリンピアンの招聘により、高度な技に直接ふれ、感動やあこがれをもたせたり、生き方について考えたりする機会となった。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パラリンピック競技の体験を行いたい学年が多いが、用品等の確保が難しい。</li> <li>○ オリンピアンやパラリンピアンの招聘は、個人的な知り合いなど、つてに頼っているのが現状ではないだろうか。例えば、県や市で招聘できる人材を確保してリストを作成し、その中から実施校のニーズに合った方を招聘できるようなシステムが構築できないだろうか。県や市が派遣し、謝金等も一括して支出することにより、各学校への配当金もより有意義に活用できるのではないだろうか。</li> <li>○ 学校規模の関係により、オリンピックやパラリンピアンの招聘による授業は、高学年になることが多い。</li> </ul>
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピアンやパラリンピアンの招聘による講演会等(特にパラリンピアン)</li> <li>○ パラリンピック競技の体験</li> <li>○ ホストタウンになるスイス連邦への関心や理解にかかわる学習</li> <li>○ オリンピック・パラリンピックの競技種目についての学習</li> </ul>